

2. モモのモモノゴマダラノメイガに対する黄色灯の防除効果（情報）			
[要約] モモに発生するモモノゴマダラノメイガに対し、黄色灯を早期（5月中旬ごろ）から終夜点灯すると果実に対する被害抑制効果が高い。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

県内のモモ産地では、フェロモン剤では防除できないモモノゴマダラノメイガの発生が多く、化学農薬削減の大きな障害となっている。一方、ブドウではモモノゴマダラノメイガに対し黄色灯による被害抑制効果が高いことが明らかとなっている。そこで、モモにおいても黄色灯の防除効果を検討する。

[成果の概要・特徴]

1. モモノゴマダラノメイガによるモモ果実への産卵果率は、無処理区で6月下旬に25～40%に急増するが、黄色灯点灯区（220W高圧ナトリウム黄色灯、NBT（株）製、商品名：撃退くんGN型）では調査期間を通じて5%以下と低い（図1）。
2. 被害果率は、収穫前の7月中旬には無処理区で35～50%ときわめて高いのに対し、黄色灯点灯区では2～9%と低い（図1）。
3. 日中樹冠下の相対照度は、疎植園で31.5～48.7%ときわめて高く、密植・過繁茂園では6.8～12.1%と低い。被害果率は相対照度の低い密植・過繁茂園が全般的に高いことから、光が透りにくい所では被害が発生しやすい（表1、2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 密植・過繁茂園では、光の透過が悪く、特に圃場周縁部で被害が多い傾向があるため、樹冠下への補助灯（黄色蛍光灯）の設置や殺虫剤のスポット散布が必要である。

[具体的データ]

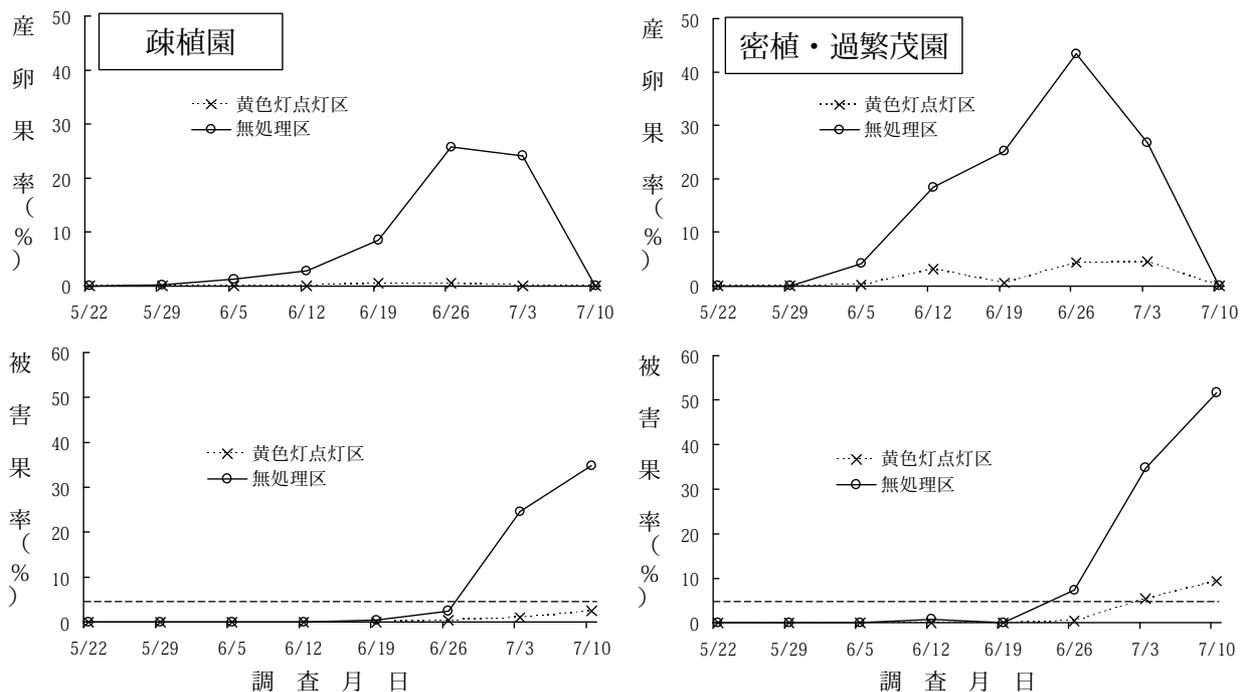


図1 黄色灯点灯区及び無処理区におけるモモノゴダラノメイガの産卵・果実被害の推移（3樹平均）

注) 試験条件：赤磐市、無袋栽培、殺虫剤無散布
 品種：「清水白桃」
 電球設置位置：圃場中央部の地上から5.5mの高さに支柱で固定
 点灯期間：5月中旬から収穫期(7月中～下旬)まで

表1 収穫期前における樹別の被害状況（疎植園）^z

	黄色灯点灯区			無処理区 ^y
	4.5m	8.7m	15.0m	
黄色灯からの距離	4.5m	8.7m	15.0m	—
日中樹冠下の相対照度 (%)	48.7	36.1	31.5	—
被害果率 (%)	0	0	7.1	35.3

^z平成19年7月10日調査

^y3樹の平均値

表2 収穫期前における樹別の被害状況（密植・過繁茂園）^z

	黄色灯点灯区			無処理区 ^y
	6.0m	10.3m	15.5m	
黄色灯からの距離	6.0m	10.3m	15.5m	—
日中樹冠下の相対照度 (%)	6.8	6.6	12.1	—
被害果率 (%)	6.0	7.7	14.3	51.4

^z平成19年7月10日調査

^y3樹の平均値

[その他]

試験研究課題・事業名：黄色灯及びフェロモン剤を利用したモモの総合的防除技術の
 確立

予算区分：交付金（病虫害防除農薬環境リスク低減技術確立）

研究期間：平成19年度

関連情報等：平成17年度試験研究主要成果「黄色蛍光灯を利用した「ピオーネ」
 の鱗翅目害虫の防除」